

# 活動報告

## 「サポセンで

### コミュニケーション」

第1回

日時：平成17年7月30日（土曜日）

場所：高槻市市民公益サポートセンター

目的：サポートセンターも開設してから3年目に入ります。

これから市民活動の中間支援センターとしての役目を担う機関として期待を担っている。

第1部 講演  
「身近な課題を事業化しよう」  
講師：(有)協働研究所 与那嶺 学氏

1、ミッションとリアリティ  
ミッションとは、こうしたい、こうありたい。リアリティとは、今そこにある現実

2、「レコード盤」の考え方  
身近な問題から取り組み、そこで楽しみ、一般の人も楽しむ。

3、企画の事例  
外見は同じでも中身に味のある特長を持つ。舞鶴市「産直マーケット」最

初は1軒の農家のイチゴから、養鶏屋さん、漁民へ4、「身近な課題」を顕在化させるためには

(1)共進性・オリジナル性  
(2)課題に対して少し離れたところで「みる」。

(3)リーダーは、めんどろくさがりやが「ちようど」良い。

(4)建設的な会議以外に話合の場を作る・・・愚痴を出させる。

5、問題・課題の解決  
周辺から動かせる。

例えば開店：大工仕事、レジのシステム作りから第2部  
団体間の情報交換他  
各団体の紹介 S・O

## 世界を巡る：イスラームの世界

第3回

関西大学公開講座

### 【現代世界のイスラーム主義運動とパレスチナ】

講師 国立民俗学博物館 臼杵 陽教授

☆なぜ「イスラーム原理主義運動」ではなく「イスラーム主義運動」か  
原理主義は、英語のフ

アンダメンタリズムがそのまま日本訳されており悪意が含まれているため、研究者はこの言葉を使わない。

今回の講義では、テロ

リズムに関わる内容が主体となっているが、これもイスラームの一面ということであり、イスラームテロと短絡すべきではない。

☆9・11事件(2001年)とパレスチナ問題

ブッシュ米政府によるパレスチナ和平の仲介は、パレスチナ問題をテロリストに利用させないという理由からであり現在も変わっていない。

一方、ビン・ラーディンにとつては、パレスチナ防衛としてのジハード(聖戦)であり、1998年、ビン・ラーディンらが「ユダヤ教徒・十字軍に対するイスラーム世界戦線」を結成して

米国に対するジハードを呼びかけた。

☆エルサレムは、メッカ、メディーナに次ぐ聖地であり、岩のドームがシンボルの存在。  
☆第一次世界大戦後、英仏によるアラブ世界の分割が、ビン・ラーディンのいう「80年間の屈辱と不名誉」として根底にある。

☆イスラーム解放党は、更に過激なテロリスト中のテロリストといわれている。  
1967年第三次中東戦争後、ヨルダンに拠点を移し、独仏英さらにトルコ・インド・パキスタン、現在中央アジアへと組織を拡大している。  
イスラーム世界は、友達の友達は皆友達だ方式で増やしているので外からは見え難い。  
☆パレスチナの枠内で非宗教的民主国家をめざすパレスチナ解放運動からパレスチナのイスラーム国家へと変質してきている。

T・Y

## 味わいWAY

### 茎わかめのきんぴら

茎わかめを水又はお湯に戻して切る。

オリーブオイルで茎わかめをいためる。

みりん・だし・醤油でからめる。

好みて唐辛子やゴマで風味をつける。

茎わかめの酢の物は、柔らかかめに戻して 合わせ酢に漬ける  
千切り野菜とのサラダに

### 茎わかめはカロリーゼロの美容食品

私も徳島県鳴門より取り寄せています

いろんな料理を試してみました、やはりきんぴらが一番お気に入りです。

ご飯やお酒のつまみにもピッタリの常備食です。



M・K

## トピックス

### 原爆記念日に思う

被爆50周年有感

五十年前戦局危	五十年前戦局危し
炎威八月乱蟬滋	炎威八月乱蟬滋し
白光一闪爆風起	白光一闪爆風起り
雲影須臾黒雨垂	雲影須臾黒雨垂る
広島市街為地獄	広島市の市街地獄と為り
長崎民衆極傷悲	長崎の民衆傷悲を極む
且行実験法中呆	に実験を行わんとす法中呆なり

反核高嘴竟訴誰 反核の高嘴竟に誰にか訴えん  
(註) 且(まさに) 法(フランス) 中(中国)

上の漢詩は、10年前に作りました。60周年に当り見直していたところ、『且行実験法中呆』が目にとまりました。

将にこの時、フランスと中国が核実験を行い世界の注目を浴びていた時だったのです。

それから10年、今年の5月に開かれた核不拡散条約再検討会議で明らかになったのは、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国、インド、パキスタン、北朝鮮、イスラエルなどの核保有国並びに核保有願望国が、世界の大多数の市民や国の声を無視し、人類を滅亡に導く危機に陥れているという事実です。

唯一の被爆国日本の国民として、私たちは、ヒロシマ・ナガサキの被爆の実相を世界につたえ、核実験禁止・核兵器廃絶を訴える責務があります。 S・N